

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0370900532		
法人名	NPO法人ケアセンターいこい		
事業所名	認知症高齢者グループホーム いこいの宿		
所在地	一関市末広一丁目9-13		
自己評価作成日	平成23年10月31日	評価結果市町村受理日	平成24年1月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www2.iwate-silver.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0370900532&amp;SCD=320">http://www2.iwate-silver.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0370900532&amp;SCD=320</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	(財)岩手県長寿社会振興財団
所在地	岩手県盛岡市本町通3丁目19-1 岩手県福祉総合相談センター内
訪問調査日	平成23年11月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一関駅より徒歩15分の磐井川の辺に面して四季折々の花が眺められ穏やかに生活出来る場所にあります。生活面では自分らしく生活出来るように出来ない部分の援助を行い日常生活の中で機能等の動作訓練を行っています。今年は隣の空き地を借りて野菜をたくさん植えて利用者さんと一緒に苗植え・草取り・収穫と外での活動を昔を思い出しながら楽しむ事が出来き本人たちの生きがいになっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

住宅地の中にある事業所で、平成16年に開設してから、社は「信頼」「親身」「進取」という思いを大切に、利用者本位を根底に置き、よりよいケアを目指している。職員の世代も幅広く、気持ちの汲み取り・把握に重要なポイントともなっている。明るくアットホームな雰囲気があり、利用者も、職員も笑顔が多く見られる。地域の方々とも年を重ねることに、かかわりが広がり、理解と協力が得られている。イベント(芋煮会等)を開催しても多くの方々が集まってくれている。避難訓練等でも協力を頂いている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念・ケア理念は施設内に掲示している。1/月の職員会議・勉強会にて確認・共有しながら日々の介護指針としている。	社は「信頼」「親身」「進取」の心に基づき、日々のケアに当たっている。法人としての思いを、事業所独自の理解と共有認識のもと、実践に活かしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域に溶け込むために民区の一員として班長等も受けている。毎年、恒例の運動会にも利用者全員・職員も参加し競技も用意して頂き眠区内の方々と交流を図っている。	地域の運動会への参加も行った、地域の方の配慮により利用者が参加が可能な種目もあり参加し楽しんだ。事業所においての芋煮会への招待やお祭りのみこしの休憩所としての提供など地域とのつながりや関わりが多くある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設の行事であるお花見・芋煮会に地域の方々を招待し地域の方々との交流を図っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一度、実施し、行政・民区区長・利用者・利用者家族管理者・施設職員にて構成されている。自由に討議し、議事録は職員全員に回覧して情報の共有を行い出された意見等は利用者のサービス提供に生かしている。	運営推進会議には行政・区長(自治会)、利用者家族(順番に別な家族の参加)など参加し行っている。利用者の近況をお伝えする中で様々な意見を頂いたり話しあったりしている。会議の案内(文書発送)時に会議の内容についても触れて案内することにより事前理解が深められている。議題について更に工夫していきたいと考えている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	広域行政組合の介護相談員による話し合いが行われている。利用者・家族・職員等には情報の提供・助言・指導等を受け対応するなど市との連携を図っている。	介護相談員が年に1回訪問して事業所の状況を見てくれる体制があるほか、運営推進会議においても助言等頂いたり、情報を得られたりしている。今後も連携を図っていけるような環境がある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員が個々に本人の行動等を理解して否定せず行動を共にし安全・安心に努めている。また、入所時にも家族に説明を行っている。	本人の思いや行動を制限することでの課題解決ではなく、本人の役割や日課を考え見直し関わることで、外出傾向の改善が図られたりしているケースがある。拘束による弊害等を理解し、本人本位のケアを常に目指している。学習会・勉強会も行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	運営推進会議を通じて情報共有をしている。また、虐待についての勉強会も実施し職員全員が理解して日々のケアに努めている。		

岩手県 認知症高齢者共同生活介護 認知症高齢者グループホーム いこいの宿

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、入所中の方々は必要としないが今後に備えて制度等について勉強会を実施している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	本人・家族に対して契約時に説明を行い理解・納得をして頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者とのコミュニケーションを図る中で気軽に個々の思いが引き出せるような環境作りをしている。	意見箱を置くなどのハード面の取り組みはもとより、一番は顔を合わせた、家族との関わりを大切に考え、面会時に色々な意見をうかがっている。利用者の個別的なリハビリに関することなどがあり、対応している。利用者・家族の不安を招かないように努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議等で出された問題は各事業所が集まるリーダー会議にて協議される。直ぐに必要な事については本部にあげて対応して頂いている。	職員会議、リーダー会議、理事会という経過を経て様々な意見が決定されていく仕組みがある。福利厚生などについても職員が働きやすいよう意見が取り入れられている。現場の意見が通っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	仕事に対する意識付けを行い職員が働く意欲が向上するように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内外の研修会に参加して来た内容については職員会議にて他職員にも内容の説明を行い、情報の共有をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH 定例会・ブロック研修会に参加し、情報交換・職員の交換研修を行っている。		

岩手県 認知症高齢者共同生活介護 認知症高齢者グループホーム いこいの宿

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前調査にて本人の思いを受け止めるのは難しいが家族の思いは違う意味で受けとめることは可能にて本人について解らない部分の情報を確認し入所判定会議に手情報の共有を図っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前調査時に家族の思い等を聴き対応し過去・現在の経過を確認して対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談は電話・来所・訪問等を行い現在の施設の状況等を説明している。直ぐに入所が困難な場合は他GH・他サービスについて情報を提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	衣類のたたみ方・調理等出来る事は手伝って頂く。台所に立つと生き生きした面も見られます。園内の畑にて野菜作り等でも学ぶ事がある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人のこれまでの生活歴を家族と共有して本人が安心して生活出来き信頼関係が築けるように心かけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人・親戚等の面会等があるので関わりを継続出来るように対応している。また、本人が希望される場合(知人宅・古里)等に職員が同行している。	事業所によく訪れてくれた方が来なくなり心配していたことから、その方のところに行くことの支援や、行きつけの商店(衣類店)に行くための支援、お寺に行き和尚さんと話をしてくるなどの支援など様々行っている。声を聞くこと声をかけることの喜びを大切に、職員(管理者)もご家族等に電話をし、利用者との関係継続のお手伝いをしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	生活空間の場である食堂兼居間にて皆で出来る事・やりたい事が出来るような場を作り孤立しない様に関わりあえるようにしている。		

岩手県 認知症高齢者共同生活介護 認知症高齢者グループホーム いこいの宿

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院等にて退所した場合でも面会しその都度、相談等が行える状態になっている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人・家族の希望・意向を把握した上で生活して頂いている。出来る事の継続性・気付きを大切にしている。また、状態に変化があれば職員で職員会議・ケース検討会等を開催して情報を共有している。	利用者個々の意思が違うということを大切にしている。それぞれの生活のリズム(普通の生活)を作ることで、思いや意向を寄せられるようにしている。職員の年齢層も幅広いことも、「気持ちの把握」に有効的となっている。一人ひとりの達成感、役割を重要と考えている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	調査時の聞き取り・家族からの状態に提供に基づいて面会時に話す機会を設けてこれまでの生活歴等を確認し共有して対応している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りを通じて一日の一人、ひとりの過ごし方(バイタル・食事・排泄)等を把握し確認をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月の定例会にてカンファレンスを行いプランにも跳ねあげられるようにしている。	利用者の担当職員がおり、その職員を中心に利用者にあった計画を立てるようにしている。プラン-評価-再アセスメントという流れを大切に本人本位に計画を立てている。長期の目標、短期の目標にそれぞれの期間も利用者の状況により合わせて決めており、「生きた」介護計画を作っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録として残し、申し送りにて情報の共有し定例会でも検討をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	身体状況に応じて施設間で連携を図り、多機能性を重視し対応している。(法人全体でバックアップ体制あり)		

岩手県 認知症高齢者共同生活介護 認知症高齢者グループホーム いこいの宿

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域に推進会議にて情報を発信している。また、民区との繋がり等は避難訓練等でも活かされている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設入所時に本人・家族の意向を確認し、かかりつけ医には職員が同行受診をしている。緊急時にも対応可能な協力医療機関との連携が図れている。	利用者個々のかかりつけ医の受診支援を行っている。家族による通院支援が難しい利用者も多く、事業所での対応が多い。待ち時間が長くなり利用者負担も大きくならないよう、通院時の工夫も行っている。(診察券を早めに出しに行くなど)薬局にも協力頂き、薬を届けても頂いている。予防接種(インフルエンザ)は協力医のところに11月下旬行く予定である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人全体でバックアップ出来るようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中の面会・援助(洗濯)家族との連携・病院、相談員等と連携を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	法人にて市内の緩和ケアの会員にもなっている事もあり、終末期の対応も本人・家族の希望に応じて施設にて対応出来るようになっている。	看取りの対応はこれまでも経験があり、利用者・家族との話し、関わりの中で希望があれば対応して、多面からの協力・バックアップ体制により、「第二の住処(すみか)」での最期を支援できる体制を持っている。一関市内の緩和ケア会員であることも大きな力となっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアル・救急救命・AED講習会等を行って対応出来るように取り組んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時のマニュアル・避難訓練の実施・避難時の確保。	年間2回の消防署が来てくださる避難訓練を行っているほか、事業所独自でも数回行っている。避難訓練には地域の方への呼びかけにより、徐々に協力を得られてきている。区長さんは自主防災用のリヤカーを持ってきてくださったりしてくれている。夜間想定の実施も実施した。3月の震災時は近隣の方々が食材(野菜など)を持ってきてくれたりした。非常食は缶詰等を用意している。非常時の避難体制表を地域の方も含め作成し協力を頂いている。	

岩手県 認知症高齢者共同生活介護 認知症高齢者グループホーム いこいの宿

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者のペースに合わせた言葉かけを行っている。また、関係書類は見えない場所に保管し、契約書に守秘義務の記述があり個人の情報の取り扱いに注意している。	プライバシー保護に関して徹底して対応している。情報の取り扱いにも気配りし、利用者に更に近いところでは羞恥心へ配慮も行っている。排泄についても、利用者の様子を細かくうかがう事で状況を把握し誘導を行っている。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者とのコミュニケーションを図る中で気軽に個々の思いが引き出せるような環境作りをしている。	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	法人の運営理念・ケア理念に基づき日々、好きな事が出来るように取り組んでいる。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人・家族の希望する美容院等への動向・衣類についてもコーディネートして楽しんでいる。	
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の状況等を踏まえて一緒に調理を行う・献立にも希望を確認し買い物にも同行して食材を選んで頂く事も行っている。嗜好異なる場合は代替食を提供し食事を楽しむ為の支援を行っている。	職員による声かけがなくても、台所の様子や匂いから食事の準備を手伝い始める利用者もいた。また食事中は介助が必要な利用者もいないことから職員が間に入らず食事をしていく。利用者同士で、いたわり合いながら楽しく食事をしていく。昼食の「おはぎ」をおいしそうに食べていた。事業所の脇に大きな畑も作っており、収穫した野菜を食べることも楽しみの1つとなっている。食事は見た目(形状、色)や味も食欲増進に重要と考え、「おいしそう」に作るよう心がけている。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量の記録を行って個々の利用者の状態を日々、把握した上で提供している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケア(声かけ・一部介助・全介助)を状態に合わせて行っている。	

岩手県 認知症高齢者共同生活介護 認知症高齢者グループホーム いこいの宿

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者。個々の排泄間隔の確認を行い、個別に本人の状態に合わせた援助を行っている。	基本的には、トイレでの排泄を行うよう取り組んでいる。利用者個々の排泄パターンを掴むことで、排泄の自立支援により、自信回復等に結び付けるようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事面での対応と乳酸飲料・水分摂取・個別の整腸剤・下剤での対応を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の制限はないため、その日の(バイタル)等にて合わせた対応をしている。また、訴えあれば希望に添って対応している。	入浴の訴えをされる方もおり、対応している。入浴が好きでない方には、声かけのタイミングや、別な職員が対応することで入浴に結び付けている。利用者と職員の馴染みの関係をつくることで、介助の際の羞恥心等への対応としている。安心を持って入浴していただけるよう心がけている。個々のバイタル(朝に計測)により入浴の可否を判断している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の訴えを尊重し状態に応じて心身のストレス軽減に努め対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の処方(薬・内容の把握)について共有し、個別に服薬介助・確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人のしたい事・畑仕事・裁縫・洗濯・洗濯物たみ・調理・レク等出来る事を行って頂き潜在能力を引き出せるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望を取り入れて自由に出かけられるように支援している。(買い物・散歩・ドライブ)	個人ごとの散歩の習慣等に合わせている。また脇の畑に野菜を取りに行くこと、近隣まで買い物に行くこと等、それぞれに合わせた、希望に合わせた出かけるための支援を行っている。	

岩手県 認知症高齢者共同生活介護 認知症高齢者グループホーム いこいの宿

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者、個々に管理していない。ホームにて管理(預かり個別管理)本人、希望に応じて使用出来る仕組みになっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により電話が出来るようになっている。手紙についても代筆・代読を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペース(食堂兼居間)にて生活する事が多く台所の臭い・いろいろな音・風景が確認できるようにし家庭的な雰囲気の中で生活が図れるよう取り組んでいる。	台所が続きになっている居間に多く集まっている。誰からともなく、職員の誘導がなくても自然に「カルタ」が始まったりなど、自然体な団欒があった。台所からの食事の匂いや、職員のゆったりした雰囲気も気持ちが落ち着くような空気が感じられた。民家利用の落ち着いた空間が保たれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間にはソファ・椅子等があり一人、ひとりが好きな場所で利用者同士で会話を楽しんでいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は使い慣れた家具等を持参して頂き自分なりに居心地の良い環境を作って過している。	ご仏壇やお位牌を置かれている方もおり、個々の自室づくりがなされている。備え付けのベッドを利用されているが、お布団はずっと自宅で使われていたものを使うことで、安心感を持たれている様子が感じられた。居室入り口に、それぞれの「のれん」が掛けてあり、自室の目印にもなっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全面バリアフリー構造に手廊下も手すりを設けて広くとって昨日向上に向けた取り組んでいる。		